

# 令和 2 年度事業報告書 — 白楽荘・介護課 —

テーマ：自立した生活が送れるように、より良いチームケアの提供と地域支援体制の強化を図る

サブテーマ：多職種で連携し、できることの継続と快適な生活を支える

## 1. 快適に施設生活を送れるよう丁寧で温かいサービスを提供する

- ① コロナ禍の中、面会の長期間中止、面会再開の際も、窓越しやビニール越し、人数、面会頻度等の制限など感染対策の徹底を図った。そのような中で、ライン配信の取り組みや毎月の近況報告により、本人や家族の寂しさ不安に寄り添うよう努めた。
- ② 「虐待目摘みチェックシート」を記入して、普段のケアや対応を振り返ることで、不適切ケアを回避することができた。

## 2. 働き方改革より魅力ある職場づくり

- ① 希望の休みや計画的に有給取得ができ、職員のリフレッシュに繋がった。
- ② 職員間で情報を共有することにより、ストレスなく仕事に取り組むことができたが、人員不足により職員の負担、特にチームの責任者の負担が多い。今後も業務を見直し、応援体制の協力が必要である。また、職員の募集も必須。（夜勤や土日、祝日に勤務できる職員）
- ③ コロナ禍の中でも WEB 会議を中心に、新たな取り組みができ良かった。また、今まで参加できなかった認知症実践者研修にも WEB 研修になったことで参加することができ、1 名資格取得ができた。

## 3. その他 コロナ感染発症状況

- ① 職員 1 名のコロナウイルス感染により、利用者 2 名、職員 1 名の濃厚接触があり、2 週間の隔離生活となった。また、保健所の指示で 3 チームの入所者、全職員の PCR 検査を行い、結果全員陰性であったが、職員数名が、家庭の事情で帰宅できず、施設に宿泊した。
- ② コロナ対策で、発症以前より手洗いアルコールでの手指消毒の徹底、また、施設内をビニールカーテンで仕切り、ロッカーや玄関を分け、ゾーン分けすることで職員の移動を制限し、各事業所の玄関に洗面所を設置したことで、クラスター感染には繋がらなかった。引き続き感染対策を再度確認、職員に周知徹底していく。